

◎アジアの独立と冷たい戦争 d.朝鮮戦争とアジアにおける冷戦の進行

1910年以来、[1 日本]の植民地化に置かれていた朝鮮では1919年の[2 三一独立]運動が発生、その後も抗日パルチザン、台完民国臨時政府などねばり強い抗日運動がつづいていた。大戦が始まると連合国側は[3 カイロ]会談で朝鮮独立の方針を了承してはいたが、朝鮮側の体制が整わないとして当分の間[4 米ソ]両国で[5 分割統治]することが定められた。

- ①[6 1945]年8月15日 日本の敗北＝建国準備委員会結成→朝鮮人民共和国樹立を決定
↓
- ②日本の敗北と同時に[7 アメリカ]・[8 ソ連]が朝鮮に進出→[9 38]度線で分割占領実施
→冷戦の激化で米ソの対立激化→解決困難に
1949[10 中華人民共和国]成立→朝鮮半島が東西対立の frontline に!
- ③南部 アメリカの占領下にはかなりの混乱つづく
[11 李承晩]を大統領とする独裁政権を樹立→[12 大韓民国]成立(1948)
→独裁への反発、民主化運動の高まり
- 北部 ソ連の間接支配＝朝鮮指導者間の主導権争いつづく
[13 金日成]が主導権を獲得→[14 朝鮮民主主義人民共和国]独立宣言(1948)
(金英柱?)
- ⑥[15 1950]年6月[16 朝鮮戦争]勃発
[17 アメリカ]軍主体の国連軍の介入←→[18 中国人民]義勇軍の参戦
↓
アメリカ軍侵入の危機を感じる
北緯38度線付近で膠着＝1953 [19 板門店]休戦協定成立→南北の分裂の固定化

日本の敗戦とともに朝鮮半島に[20 アメリカ]・[21 ソ連]両国が進出し、北緯[22 38]度線で南北を分断して分割占領を行った。両国は当初国連で朝鮮独立を検討する予定であったが米ソ対立の中で分断が固定化、1948年南部では反共主義者[23 李承晩]大統領のもと[24 大韓民国]が成立、ソ連統治下の北部では権力を掌握した[25 金日成]が[26 朝鮮民主主義人民共和国](北朝鮮)建国を宣言、「2つの朝鮮」が出現した。こうしたなか[27 1950]年6月、発生したのが[28 朝鮮戦争]である。優勢な北朝鮮軍によって釜山周辺に追い込まれた韓国軍に対し、アメリカ軍主体の国連軍が介入、一気に中国国境まで北上した。しかし危機感を持った[29 中国]が大量の義勇軍を投入、戦線は膠着し、1953年の[30 板門店]休戦協定で休戦となった。こうして朝鮮の分裂はいっそう固定化し現在に至る。

- ⑦アメリカ＝[31 中華人民共和国](1949)成立や朝鮮戦争で危機感の拡大→東アジアが最前線に

- ・[32 台湾]への援助の強化＝中国敵視政策
- ・日本の独立と反共化の促進＝警察予備隊(のちの自衛隊)発足
- 1951 [33 サンフランシスコ平和]条約・[34 日米安全保障]条約締結
→西側諸国に組み入れる形での独立を承認・米軍基地・後方支援の拠点確保

- ⑧軍事同盟の締結→世界的規模での反共体制構築に([35 封じ込め]政策を世界展開)
→[36 巻き返し]政策

1951 米比相互防衛条約(1951)

[37 太平洋安全保障条約](ANZUS) 米・オーストラリア・ニュージーランド(1951～)
東南アジア条約機構[38 SEATO]…AUZUS+英仏+フィリピン、タイ、パキスタン(1954～77)

[39 中東条約機構](METO)…英・トルコ・イラク・パキスタン・イラン(1955～59)
→[40 中央条約機構](CENTO)…[41 イラク]脱退(1959～79)
北大西洋条約機構(NATO)(1949～)
米州機構(OAS)(1948～)

- ⑨共産主義陣営の対抗
- 1947[42 コミンフォルム]＝共産党情報局結成(※ソ連が介入するための機関として用いられる)
→1948ユーゴスラビア(指導者[43 テイト])除名 1949東ドイツ加盟
- 1949[44 コメコン(COMECON)]＝東ヨーロッパ経済相互援助会議結成
- 1950 中ソ友好同盟相互援助条約(～80 実際には60年代以降は無効に)
- 1955 東ヨーロッパ友好協力相互援助条約＝[45 ワルシャワ条約機構]結成(～1991)

1949年の中華人民共和国の成立と翌1950年の[46 朝鮮戦争]勃発は極東を東西対立の最前線とした。1949年軍事同盟[47 北大西洋条約機構](NATO)を結成したアメリカは、朝鮮戦争をきっかけにするとアメリカは「巻き返し」政策を掲げ、世界的規模での反共体制構築をめざすようになっていく。「2つの中国」政策をとって[48 台湾]への援助をつよめ、占領下にあった日本を[49 サンフランシスコ平和]条約で西側陣営の一員として独立させ、あわせて[50 日米安全保障]条約で日本における基地を確保した。また[51 太平洋安全保障]条約(ANZUS)、東南アジア条約機構([52 SEATO])、[53 中東]条約機構(METOのち[54 中央]条約機構(CENTO)へ改組)などの軍事同盟を締結、世界規模で封じ込め政策を進めようとしたのである。これにたいし、ソ連側は1947年に結成された[55 コミンフォルム](共産党情報局)で東側諸国への介入の材料とし、事実上これが軍事同盟の役割を果たしていた。さらに1949年[56 コメコン](東ヨーロッパ経済相互援助会議)を結成、東側の経済協力体制を構築していた。しかしコミンフォルムはスターリン死亡後の1955年解散され、新たな軍事同盟として結成されたのが[57 ワルシャワ条約機構](東ヨーロッパ友好協力相互援助条約)である。

e.第三勢力の台頭

- ①1954 [58 コロンボ]会談＝南アジア5カ国首脳がアジア＝アフリカ会議の開催などを提案
セイロン(現スリランカ) (インド・パキスタン・セイロン・ビルマ・インドネシア)
- ②1954 中国[59 周恩来]首相とインド[60 ネルー]首相が「61 平和五原則」発表
領土主権の相互尊重、相互不可侵、内政不干涉、平等互惠、平和共存
- ③1955 [62 バンドン]会議(アジア＝アフリカ会議)＝「平和十原則」発表 29カ国参加
インドネシア 反植民地主義と平和地域拡大を主張＝AA諸国の自己主張へ
指導者 スカルノ＝[63 インドネシア] ネルー＝[64 インド]
- ④1961[65 非同盟諸国]会議＝ベオグラード(ユーゴスラビア) 25カ国参加
平和共存・民族解放の援助・植民地主義の打破
呼びかけ人…[66 テイト](ユーゴスラビア)ナセル(エジプト)スカルノ(インドネシア)ネルー(インド)